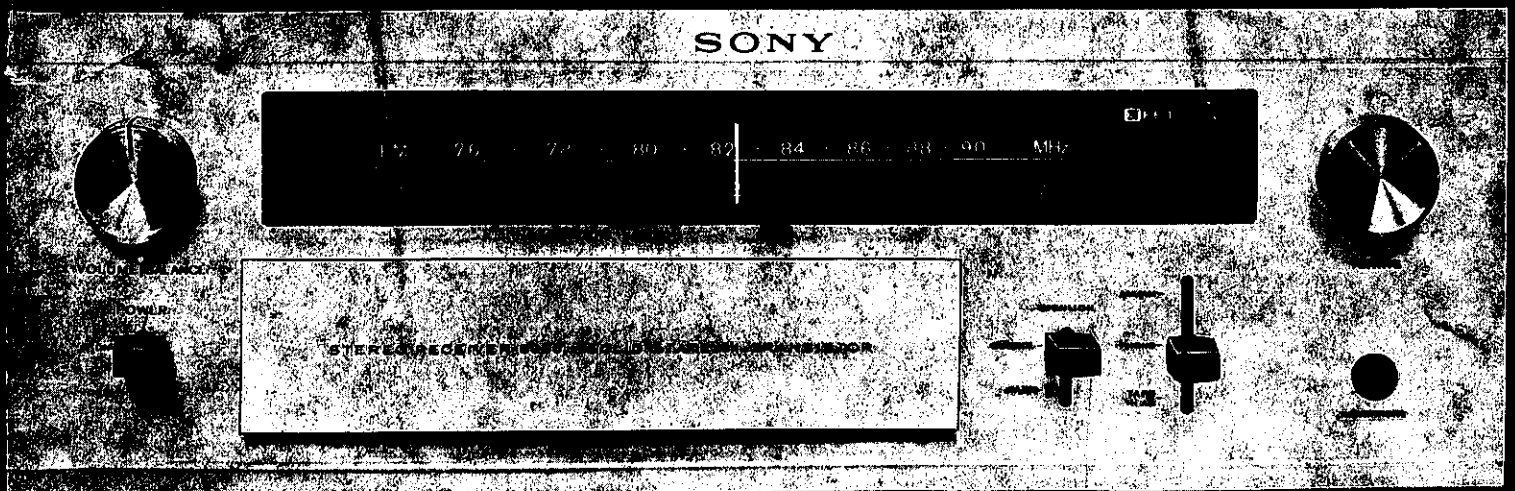
ステレオレシーバー STR-6060 取扱説明書

はじめに

どんなものでも新しいものを手に入れたときの喜びは格別で，いつになっても楽しいものです。そして早く使いたい，味わいたいという気持はどなたも同じことだと思います。
でもちょっとお待ちください！　このステレオレシーバーは，当然のことながらスピーカーをつながなければなりませんし，レコードやテープをお聞きになるときは，それぞれの端子にレコードまたはテープ・プレーヤーをつなぐ必要があります。
これらの，組み合わせるステレオシステムが正しく使われませんと，本機の性能を十分発揮することができず，満足な結果を得ることができません。
楽しみにしていたその喜びを十分満たすためにも，この説明書をぜひお読みいただき，正しくお使いくださるようお願いいたします。そして迫力のあるすばらしいステレオの音を，心ゆくまでお楽しみください。

主な特長

○チューナー部

FET（電界効果型トランジスタ）3石使用のフロントエンド
フロントエンドは，精密な4連バリコンを使用し，RF段とミキサー段との間に複同調回路を構成，カスコード結合のRFアンプとミキサーに3石のFETを使用しています。このため，実用感度1.8μV（IHF）と高感度でありながら，強電界地域においても妨害排除特性がすぐれ，安定に受信できます。またフロントエンドは温度に対する周波数ドリフトが極めて少ないため，AFCは特につけてありません。

高選択度特性のIF回路
IF同調回路に十分な帯域と良好な選択度をもつメカニカルフィルターを使用，抜群の妨害排除特性を得ています。

VOLUME BALANCE
POWER
ON
STEREO RECEIVER

ステレオ・モノ自動切換

放送がステレオになると，自動的にステレオになる自動切換回路および，選局途中の雑音などによるステレオインジケーターの誤動作を防止する回路がついています。

高性能な FM マルチプレックス回路

マルチプレックス回路は，高選択度で極めて安定な 19kHz (kc/s) の選択性アンプで，複同調回路を使用，また，キャリヤリークが極めて少ないので，FM マルチステレオの録音時に発生しやすいビート障害などは全く心配ありません。

快適なミューティング回路

FM 放送選局途中に発生する雑音を，完全に抑圧するミューティング回路で，極めて快適な選局ができます。

●オーディオ部

低歪率，高 S/N 比のプリアンプ

新開発の APM (Advanced Passivated Mesa) 型シリコントランジスタ 2SC632 を使った，極めて低歪率ですぐれた S/N 特性をもつ回路です。イコライジングアンプは NF 型，トーンコントロールは連続可変の CR 型でトーンキャンセルスイッチつきです。

準コンプリメンタリー SEPP OTL 回路のパワーアンプ

パワーアンプ部もソニーの誇る大出力シリコントランジスタを使用し，低歪率 (0.2%) でしかも定格出力 60W (8Ω) と大出力を得ています。

新方式のトランジスタ保護回路

本機の保護回路は，トランジスタの温度が危険な状態まで上昇する直前に動作する，熱感応型の自動復帰保護回路を採用しています。(2頁参照)

大型カットコア使用のパワートランス

パワートランスは，レギュレーションが良く，漏洩磁束が少ない特別設計のトランスを使用しています。

目　次

お使いになる前に

次のことにご注意ください。

1. 極端に暑い所や湿気，ほこりの多い所でのご使用は避けてください。またキャビネット回りの通気孔をふさがないようにし，なるべく風通しのよい所に置いてください。
2. テープヘッド端子〔TAPE HEAD〕，レコード端子〔PHONO〕を，お使いにならないときは，必ず付属のショートプラグを差し込んでおいてください。
3. 電源電圧が 110V 以上になるところでは，電圧調整器で規定の電圧（100V）にしてお使いください。

■トランジスタの保護回路について

本機は熱感応型自動復帰保護回路を採用しています。この保護回路はトランジスタの温度が危険な状態まで上昇する直前に動作し，瞬間的な過大入力やスピーカー短絡によっては動作しません。
このため比較的低インピーダンス（1～3Ω）のスピーカーでも使用することができます。しかし，このような低インピーダンスのスピーカーを使用し，大出力で動作させますと，トランジスタの温度上昇が早く，30 分～1 時間程度で保護回路が働き，約 1 分間くらい音がでなくなります。保護回路が動作すると，トランジスタの温度が下り，保護回路が解除されて音がでてきますが，またすぐ温度が上るため音がでなくなり，この繰り返しになります。このようなときは音量を下げるか，スピーカーを推奨値の 4～16Ω のものにかえてください。なお，一般家庭で普通の音量でお聞きになるときは問題ありません。またコンデンサースピーカーを直接アンプにつないでも，支障なく使うことができます。

各部の名称

ステレオ表示ランプ
FM表示ランプ
AM表示ランプ
ボリュームつまみ〔VOLUME〕
バランスつまみ〔BALANCE〕
チューニングメーター
チューニングつまみ〔TUNING〕
SONY
電源スイッチ〔POWER〕
低音調節つまみ〔BASS〕
高音調節つまみ〔TREBLE〕
トーンキャンセルスイッチ〔TONE IN/OUT〕
モードスイッチ〔MODE〕
ヘッドホンジャック〔HEADPHONE〕
入力切換スイッチ〔FM/AM, PHONO, TAPE HEAD〕
テープモニタースイッチ〔MONITOR〕
FM/AM 切換スイッチ〔FM/AM〕
ミューティングスイッチ〔MUTING〕

AMアンテナ端子〔AM〕
FMアンテナ端子〔75Ω〕
バーアンテナ
FMアンテナ端子〔300Ω〕
SONY
テープヘッド端子
〔TAPE HEAD〕
電源コード
レコード端子
〔PHONO〕
電源コンセント〔AC OUTLET〕
アース端子
〔GROUND〕
スピーカー端子 左〔LEFT〕
テープ端子
〔TAPE〕
スピーカー端子 右〔RIGHT〕
録音端子
〔REC OUT〕
録再コネクター〔REC/PB〕

ステレオシステムの構成

●テープレコーダーとの接続は，RK-56（¥300）または RC-2（¥580）をご利用ください。

各接続端子のつなぎかた

☆ 各入力端子への接続には，静電容量の少ないシールド線（ソニー接続コード RK-56 など）を用いてください。

☆ 各接続コードはしっかり差し込んでおいてください。接続がゆるんでいますと，ハムや雑音の原因になります。

AM アンテナ端子〔AM〕
AM（中波）放送がよく聞こえない場合には，この端子に 5m 以上のビニール線をつなぎ，窓ぎわまたは屋外のなるべく高い所へ張ります。

FM アンテナ端子〔75Ω〕〔300Ω〕
FM 放送を受信するときは，この端子にアンテナをつなぎます。アンテナ端子は 75Ω 用と 300Ω 用とがあり，お使いになるアンテナにより使いわけます。
FM 用アンテナ端子３つのうち，真中の端子は共通に使います。

〔300Ω〕端 子
300Ω フィーダー線使用のアンテナをつなぎます。付属の FM 用フィーダーアンテナはこの端子につなぎます。この場合アンテナのＴ字形の部分を広げて放送を受信し，最もよく聞える所にクギなどでＴ字形の両端を止めてください。
付属のアンテナでよく受信できない場合は，別に FM 用の屋外アンテナを設置し接続してください。

〔75Ω〕端 子
75Ω の同軸ケーブル使用のアンテナをつなぎます。この場合，同軸ケーブルの芯線を 75Ω〔＋〕側の端子につなぎ，外被シールド線を 75Ω〔－〕側の端子につなぎます。

バーアンテナ
バーアンテナは出荷時には，パネル側に立ててあります。お使いになるときは手前へ倒してパネル面から離してください。

アース端子〔GROUND〕
レコードプレーヤーまたはテープレコーダーのアース端子とつなぎます。また，ハムや雑音がでる場合や屋外アンテナを使用した場合は，アース端子から太いビニール線などで，地中に埋め込んだ金属棒につなぎます。（アースが完全な場合には雷による事故を防ぐことができます。）ガス管につなぎますと爆発する恐れがありますので，絶対につながないでください。

電源コード
電灯線のコンセント（100V）につなぎます。

電源コンセント〔AC OUT LET〕
このコンセントに消費電力 300W までのものをつなぐことができます。レコードプレーヤーまたはテープレコーダーの電源としてご利用ください。

テープヘッド端子〔TAPE HEAD〕
ショートプラグをはずして使います。プリアンプのないテープデッキ（ソニー TC-263D など）をつなぎます。この端子の入力感度は 1mV，入力インピーダンスは 200kΩ で，イコライザーは，19cm/s の NAB 規格に調節されています。

レコード端子〔PHONO〕
ショートプラグをはずして使います。この端子は，マグネチックカートリッジ（M･M 型，M･C 型，I･M 型等）つきのレコードプレーヤー（ソニー PS-2000，PS-3000 など）が使用できます。

この端子の入力感度は 2.3mV, 入力インピーダンスは 47kΩ で, イコライザーは RIAA 規格です。レコードプレーヤーにアース線がついている場合には，本機のアース端子〔GROUND〕につなぎます。

テープ端子〔TAPE〕
録音端子〔REC OUT〕

この端子は録音・再生プリアンプつきのテープレコーダー（ソニー TC-255, TC-350 など）をつなぎ，1 台のテープレコーダーで録音または再生するときに使います。どちらの端子も周波数特性はフラットです。

テープ端子

テープを聞くときには，この端子とテープレコーダーのライン出力端子（またはモニター端子）をつなぎます。テープ端子の入力感度は 130mV, 入力インピーダンスは 100kΩ です。

録音端子

テープに録音するときには，この端子とテープレコーダーのライン入力端子 (LINE IN または AUX IN) をつなぎます。録音レベルの調節はテープレコーダー側で行います。

録再コネクター〔REC/PB〕

これは録再コネクターがついているテープレコーダー（ソニー TC-255 など）とこの録再コネクターを専用のコード（ソニー録再コード RC-2 ￥580）1 本で接続し，録音・再生ができる便利なものです。

スピーカー端子〔LEFT〕〔RIGHT〕

この端子につなぐスピーカーは，インピーダンスが，4～16Ω のもの（ソニー SS-3300 など）が適当です。接続の際スピーカーの極性（＋，－）および左右チャンネルは正しく合わせてください。極性を誤ってつなぎますと，低音部が小さく，音楽の場合各楽器の定位（位置）がはっきりしなくなります。また左右チャンネルを逆につなぎますと，音楽の場合各楽器の定位が左右逆になってしまいます。

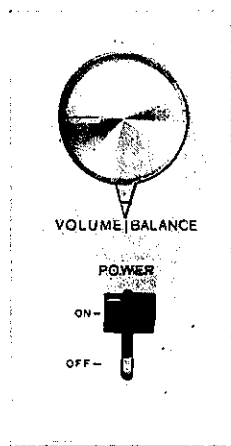
スピーカーは，なるべく最大許容入力がアンプの定格出力（30W/ch）に近いものか，それ以上のものをお使いください。スピーカーの許容入力があまり小さいものを使った場合，音量を上げたままレコードに針をかけたり，はずしたりしたとき，またミューティングスイッチを〔OUT〕にしたまま，FM 放送を離調状態にしますと，スピーカーに過大入力が加わり，スピーカーが破損する恐れがありますので，このようなときは必ず音量を絞ってから，操作するようにしてください。

ヘッドホンジャック〔HEADPHONE〕

このジャック（前面パネル）にステレオヘッドホン（ソニー DR-4A, DR-3A, 8Ω, DR-4C, DR-3C, 10kΩ など）を差し込みますと，アンプの出力が切れ，自動的にスピーカーからヘッドホンに切り換わります。ヘッドホンで聞く場合，各操作つまみ類はスピーカーで聞くときと同じです。なお使用するヘッドホンのインピーダンスは 8Ω から 10kΩ のものならどれでも使用できます。

各操作部の使いかた

電源スイッチ〔POWER〕

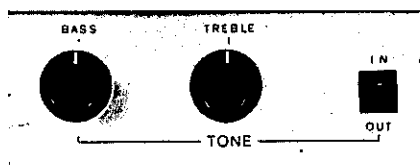
このレバーを〔ON〕側にしますと，スイッチが入りダイヤル表示面が明るくなります。電源スイッチを入れてから2〜3秒間で完全動作状態になります。
レバーを〔OFF〕側にしますとスイッチが切れます。

ボリュームつまみ〔VOLUME〕

このつまみを右に回すと音が大きくなります。大出力アンプですから急につまみを回したり，音量を上げたまま入力を切換えたり，接続をかえたりしないでください。

バランスつまみ〔BALANCE〕

このつまみ（ボリュームつまみの裏側）でスピーカーの配置や入力の差による左右の音のバランスを調節します。
つまみを真下に合わせた位置を中心に，左右に60°づつ回転します。
バランス調節をするときは，モードスイッチ〔MODE〕を〔MONO〕側にして，左右の音が両方のスピーカーの中央から聞こえるように調節します。つまみを右に回すと左の音が小さくなり，左に回すと右の音が小さくなります。

低音調節つまみ〔BASS〕

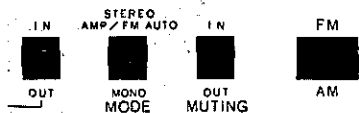
トーンキャンセルスイッチを〔IN〕側にした状態で，このつまみを右に回すと低音が強調され，左に回すと低音が弱められます。

高音調節つまみ〔TREBLE〕

トーンキャンセルスイッチを〔IN〕側にした状態で，このつまみを右に回すと高音が強調され，左に回すと高音が弱められます。

トーンキャンセルスイッチ〔TONE IN/OUT〕

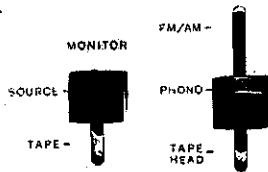
このレバーを〔OUT〕側にしますと，高音，低音調節つまみがどの位置にあっても，完全にフラットな周波数特性になります。レバーを〔IN〕側にしますと，高音，低音調節つまみで調節された音質になります。
このスイッチは，2つのプログラムソース（放送とテープなど）を交互に使う場合で，一方をフラット特性に，もう一方を音質調節して聞きたいというとき，また音質調節の効きぐあいを調べるときなど，簡単に切換えることができ便利です。

モードスイッチ〔MODE〕

このレバーを〔STEREO〕〔AMP/FM AUTO〕側にしますと，アンプ部がステレオ動作状態になります。またこの状態でFM放送を受信しますと，放送がステレオになると自動的にステレオに切換わります。
レバーを〔MONO〕側にすると，プログラムソースがモノでもステレオでもすべて左右，同じ音のモノとして再生されます。
従って，各入力端子の片チャンネルだけに入力をつないで再生するときや，左右の音のバランスをとるときは，レバーを〔MONO〕側にします。また，FMステレオ放送で，とくに雑音が多いときは，〔MONO〕側にしますと，立体感はなくなりますが聞きやすい音になります。なお，AM（中波）放送の場合は，レバーがどちらにあっても関係ありません。

ミューティングスイッチ〔MUTING〕

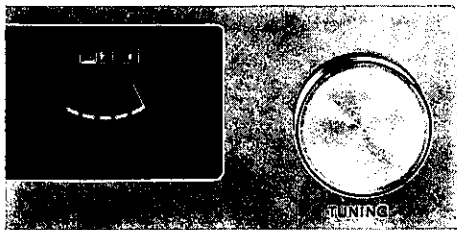
FM放送を受信するときに使います。
このレバーを〔IN〕側にしておきますと，FM放送離調時（放送を受信していないとき）に出る雑音をカットします。放送を受信しますと，自動的にミューティングが解除され放送が聞えます。
レバーを〔OUT〕側にするとミューティングが解除されます。とくに微弱な電波を受信するときは，〔OUT〕側にして受信します。

FM/AM 切換スイッチ〔FM/AM〕

FM放送を受信するときはレバーを〔FM〕側にし，AM（中波）放送を受信するときはレバーを〔AM〕側にします。スイッチを切換えるとダイヤル面の表示ランプ〔FM または AM〕が切換わります。

テープモニタースイッチ〔MONITOR〕

テープレコーダーをテープ端子〔TAPE〕または録再コネクター〔REC/PB〕に接続してテープを聞く場合は，レバーを〔TAPE〕側にします。この場合入力切換スイッチはどの位置にあっても構いません。
レバーを〔SOURCE〕側にしますと，入力切換スイッチで切換えたもの〔FM/AM, PHONO, TAPE HEAD〕を聞くことができます。また3ヘッドのテープレコーダーを録再コネクターまたは，テープ端子および録音端子に接続すれば，録音のとき，テープモニタースイッチが〔SOURCE〕側で，録音される前の音を聞くことができ，テープモニタースイッチを〔TAPE〕側にすると，テープに録音された音を聞くことができます。

入力切換スイッチ〔FM/AM, PHONO, TAPE HEAD〕

テープモニタースイッチを〔SOURCE〕側にした状態で，つぎの3つの入力に切換えることができます。
FM/AM放送を聞くときは，レバーを〔FM/AM〕側に，レコードを聞くときは，レバーを〔PHONO〕側に，テープデッキからのテープを聞くときはレバーを〔TAPE HEAD〕側にします。

チューニングつまみ〔TUNING〕

このつまみを回してお望みの放送を受信します。放送に同調しますと，チューニングメーターの針が右に振れますから，最も右に振れる位置につまみを合わせます。

チューニングメーター〔TUNING〕

このメーターを見ながら，チューニングつまみを回して放送に正しく同調させます。メーターの針は，放送を受けていないときは左にきており，放送を受けると右に振れます。

FM/AM 放送を聞くには

1. 各接続端子のつなぎかた（7，8 頁）を参照して，アンテナ，スピーカーおよび各電源コードをつなぎます。
   - 付属のアンテナでよく聞えない場合には，別に FM 用屋外アンテナ（市販のもの）を設置し接続してください。
   また，とくに弱い AM（中波）放送を受信するときには，AM アンテナ端子〔AM〕に 5m 以上のアンテナ線を接続してください。
2. 各操作スイッチをつぎの状態にします。
   電源スイッチ──→〔ON〕に，
   テープモニタースイッチ──→〔SOURCE〕に，
   入力切換スイッチ──→〔FM/AM〕に，

   ☆FM 放送を聞くときは
   FM/AM 切換スイッチ──→〔FM〕に，
   モードスイッチ──→〔STEREO〕に，
   ミューティングスイッチ──→〔IN〕に，
   - FM ステレオ放送でとくに雑音が多いときは，モードスイッチを〔MONO〕にすると聞きやすくなります。

   ☆AM（中波）放送を聞くときには
   FM/AM 切換スイッチ──→〔AM〕に，
   - AM 放送の場合，ミューティングスイッチ，モードスイッチは関係ありません。
3. ボリュームつまみを右に少し回して音量を上げておき，チューニングつまみを回してお望みの放送を受信します。
4. ボリュームつまみ，バランスつまみ，高音，低音調節つまみを調節してお好みの音でお楽しみください。
   - 音質を調節するときには，トーンキャンセルスイッチを〔IN〕にします。（9 頁）
   - ヘッドホンでお聞きになるときには，ステレオヘッドホンをヘッドホンジャックに差し込みます。（8 頁）

レコードを聞くには

1. 各接続端子のつなぎかた（7，8頁）を参照して，スピーカー，レコードプレーヤーおよび各電源コードをつなぎます。
2. 各操作スイッチをつぎの状態にします。
   電源スイッチ──→〔ON〕に，
   テープモニタースイッチ──→〔SOURCE〕に，
   入力切換スイッチ──→〔PHONO〕に，
   モードスイッチ──→〔STEREO〕に，
3. レコードをかけ，ボリュームつまみ，バランスつまみ，高音，低音調節つまみを調節してお好みの音でお楽しみください。
   - 音質を調節するときは，トーンキャンセルスイッチを〔IN〕にします。（9頁）
   - モノレコードを聞くときは，モードスイッチを〔MONO〕側にします。
   - ヘッドホンでお聞きになるときには，ステレオヘッドホンをヘッドホンジャックに差し込みます。（8頁）

テープを聞くには

1. 各接続端子のつなぎかた（7，8頁）を参照して，スピーカー，テープレコーダーおよび各電源コードをつなぎます。
2. 各操作スイッチをつぎの状態にします。
   電源スイッチ──→〔ON〕に，
   テープモニタースイッチ──→〔TAPE〕に，
   モードスイッチ──→〔STEREO〕に，
3. テープをかけ，ボリュームつまみ，バランスつまみ，高音，低音調節つまみを調節してお好みの音でお楽しみください。
   - 音質を調節するときは，トーンキャンセルスイッチを〔IN〕にします。（9頁）
   - ヘッドホンでお聞きになるときには，ステレオヘッドホンをヘッドホンジャックに差し込みます。（8頁）

録音をするには

1. 各接続端子のつなぎかた（7, 8 頁）を参照して，テープレコーダーおよび各電源コードをつなぎます。
2. 電源スイッチを入れ，テープモニタースイッチを〔SOURCE〕側にします。
3. 入力切換スイッチを録音する入力（FM/AM, PHONO, TAPE HEAD）に合わせます。
4. テープレコーダーの録音感度を調節してテープに録音します。

- 3ヘッドのテープレコーダーを録再コネクターまたは，テープ端子・録音端子に接続すれば録音中は，テープモニタースイッチが〔SOURCE〕側で録音される前の音を聞くことができ，〔TAPE〕側でテープに録音された音を聞くことができます。
- テープを聞くには，12 頁をごらんください。
- ステレオレコードやステレオ放送を，モノのテープレコーダーで録音するときには，録音端子の〔LEFT〕または〔RIGHT〕端子とテープレコーダーのライン入力端子（LINE IN または AUX IN）をつなぎ，モード切換スイッチを〔MONO〕側にして録音します。

故障と間違えやすい症状と処置のしかた

つぎの症状以外の場合，また症状による処置をしても直らないときは，セットの故障による場合がありますので，そのようなときは，ソニーサービス各支所へご相談ください。

FM/AM 放送受信中，または，レコード演奏中など全てに起る症状

症状	原因	処置
電源スイッチを入れてもランプもつかず，音もでない。	電源コードの接続不完全。	電源コードのプラグをコンセントに完全にさし込む。
ランプはつくが音がでない。	スピーカーコードの接続不完全。 テープモニタースイッチの切換え不適当。	スピーカーコードの接続を確める。 テープ端子につないだものを聞くとき以外は，テープモニタースイッチを〔SOURCE〕側にする。
片側だけ音がでない。	スピーカーコードの接続不完全。 バランスつまみが片側いっぱいに回してある。	スピーカーコードの接続を確める。 バランスつまみを中央位置に調節する。
ボリュームを上げて聞いていると時どき音が出なくなる。	低インピーダンスのスピーカーを使った場合，アンプの保護回路が働いて音がでなくなる。	スピーカーのインピーダンスを4～16Ωのものに変えるか，音を小さくして聞く。
FM/AM 放送とレコード演奏のときの音量に差がある。	電波の強さとレコードプレーヤーの出力が異なるため。	ボリュームで最適の音量に調節する。
放送に同調してもチューニングメーターが右いっぱいに振れない。	回路で制限しているため。	弱い電波（局）では，もちろん振れが小さいが，強い電波でもいっぱいには振れません。 最も右に振れた位置に合わせればよい。
雷雨の日などケースに手をふれるとビリビリ電気がくる。	屋外アンテナが雷の静電気を拾う。	アース端子よりアースを完全にとる。

FM 放送のときだけ起る症状

症　　　状	原　　　因	処　　　置
ザーッという音が入りステレオにすると大きくなる。 ステレオ放送時にステレオランプが点滅する。	電波が弱いため。	付属のフィーダーアンテナを使っているときは，屋外アンテナにかえる。放送局から遠い所では大型のアンテナ(7～8素子)が必要です。 ステレオ放送で雑音が多い場合はモノにして聞く。
ときどき，バリバリ，ガリガリという雑音が入る。	自動車のイグニッションノイズによるため。 (電波の弱い所ほど大きくなる)	屋外アンテナをなるべく道路より離れた所に設置する。同調を正確にとる。
選局途中で大きい雑音がでる。	FM 受信方式による現象。	ミューティングスイッチを〔IN〕にしておく。 ボリュームを下げる。

AM 放送のときだけ起る症状

症　　　状	原　　　因	処　　　置
ジーッという雑音が聞える。とくに夜や電波の弱い局ほど大きい。	螢光灯など電気器具からでる雑音，また空電という雑音が入るため。	AM 用のアンテナ (10m 位) をつなぎ，屋外のできるだけ高い所へ張る。またアースも完全にとるとかなり減少する。
チーッ，シーッという高い音が聞える。とくに夜は大きくなる。	テレビからの雑音。 AM 放送局 (隣接局) 相互の干渉によるビート。	テレビを消してみる (近所のテレビの影響の場合もある)。高音を少し弱めて聞く。
ときどきジジッ，ザザーという雑音が入る。 放送に合わせたときだけブーンという同調ハムが入る。	雷による雑音，螢光灯の点滅時の雑音。 電源コードがバーアンテナに近づいている。	雷，螢光灯の雑音はやむをえない。 電源コードをバーアンテナから離す。 電源コードのさしこみを逆にしてみる。

主な規格

チューナー部

項目	規格
回路方式	FET（電界効果型トランジスタ）3石を含むトランジスタ25石，ダイオード16個，スーパーヘテロダイン方式，マルチプレックスステレオ回路内蔵。
アンテナ	FM 300Ω, 75Ω 外部アンテナ端子つき。 AM フェライトバーアンテナ，外部アンテナ端子つき。
受信周波数	FM 76～90MHz* (3.95～3.33m)　* Hzは c/s（周波数）を表わします。 AM (MW) 530～1605kHz (566～187m)
中間周波数	FM 10.7MHz AM 455kHz
実用感度 (IHF 規格)	FM 1.8μV (83MHz 100% 変調，歪率3%，300Ω アンテナ端子使用時) AM 18μV (歪率10%，外部アンテナ使用時)
選択度	FM 83MHz にて 50dB MW 1000kHz にて 25dB
S／N比	FM 65dB (入力60dB，83MHz，100%変調) AM 32dB (入力60dB，1000kHz) AM 41dB (入力44dB，外部アンテナ使用時)
歪率	FM 0.6% (400Hz，100% 変調) AM 1% (400Hz，30%変調)
イメージ妨害比	FM 80dB (83MHz) AM 50dB (1000kHz)
分離度	400Hz 40dB 10kHz 30dB
キャリヤリーク	38kHz −70dB
その他の機能	ミューティング回路，ステレオ・モノ自動切換，チューニングメーター，ステレオ表示ランプ，FM/AM 表示ランプ

パワーアンプ部

回路方式	トランジスタ26石，ダイオード22個，オールシリコントランジスタ準コンプリメンタリー SEPP OTL 回路。
電源	100V 50/60Hz(c/s)
消費電力	無信号時 20W　最大出力時 130W
電源コンセント	電源スイッチと関係ないもの 1 個（最大 300W）
出力	ノンクリップミュージックパワー 80W（8Ω，両チャンネルにて） ミュージックパワー（IHF 規格）74W（8Ω，両チャンネルにて） 定格出力　30W×2（8Ω）　20W×2（16Ω）　24W×2（4Ω）
周波数特性	PHONO　RIAA 規格　TAPE HEAD　NAB 規格（19cm/s） TAPE 20Hz～60kHz $^{+0}_{-3}$dB
S／N 比	PHONO 70dB，TAPE HEAD 60dB，TAPE 80dB （IHF 規格 A カーブによる聴感補正）
高調波歪	0.2%（30W/8Ω，1kHz）　0.1%（15W/8Ω，1kHz） 0.08%（0.5W/8Ω，1kHz）
混変調歪 （SMPTE 規格） 60Hz：7kHz＝4：1	0.5%（30W/8Ω） 0.2%（15W/8Ω） 0.15%（0.5W/8Ω）
入力端子	PHONO INPUT 47kΩ 2.3mV，　TAPE HEAD INPUT 200kΩ 1mV TAPE INPUT 100kΩ 130mV
出力端子	REC OUT，　HEADPHONE OUT（8Ω，10kΩ），　SPEAKER OUT
録再コネクター	CES 規格
トーンコントロール	BASS（低音）100Hz ±10dB　TREBLE（高音）10kHz ±10dB 左右連動連続可変型。
外形寸法	440（幅）×140（高さ）×380（奥行）mm
重量	11kg
付属品	FM 用フィーダーアンテナ　1　ピンプラグ（スペア用）白，赤各 2 個 ショートプラグ　4 個（高利得端子用）
別売アクセサリー	接続コード　RC-2　¥ 580 RK-56　¥ 300 ステレオヘッドセット　DR-4A（8Ω）¥ 4,200，DR-3A（8Ω）¥ 3,000 DR-4C（10kΩ）¥ 5,200，DR-3C（10kΩ）¥ 3,500

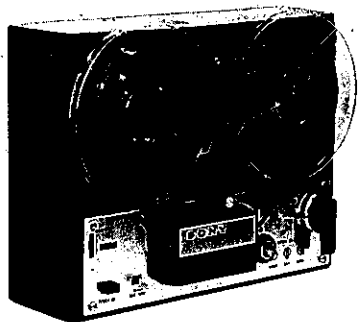
■本機の規格および回路は，改良のため予告なく変更することがあります。

ブロックダイヤグラム

TUNING METER
MUTING
OUT
IN
11 Tr 8 Di
FM
300Ω
75Ω
FM FRONT END
3FET, 2Tr, 1Di
IF AMP
8Tr 7Di
MPX ADAPTOR
OSC 1Tr
AM
MONO
STEREO
バーアンテナ
FM
FM／AM
2Tr
SOURCE
3Tr
IN
TONE CONTROL
OUT
PHONO
TAPE HEAD
TAPE
L
FM/AM
PHONO
T.H.
REC OUT
TAPE
REC/PB
STEREO↔MONO MODE
BALANCE
VOLUME
TAPE
REC OUT
MONITOR
R
FM/AM
PHONO
T.H.
PHONO
TAPE HEAD
2Tr
3Tr
TONE CONTROL
IN
OUT
SPEAKER OUT(L)
7Tr,7Di
HEADPHONE
1Tr,1Di
RIPPLE FILTER
POWER SUPPLY
OFF
ON
POWER
1Tr,7Di
7Tr,7Di
SPEAKER OUT(R)

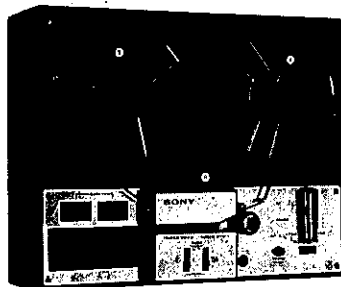
特におすすめするソニーオーディオ製品

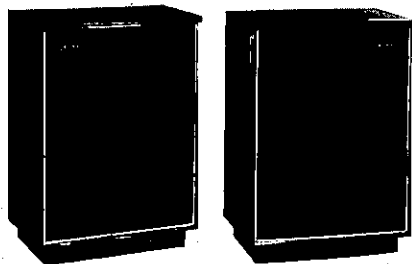
プレーヤーシステム PS-2000 ¥ 75,500
PS-3000 ¥ 78,000

ソニーサーボターンテーブル TTS-3000, ステレオトーンアーム PUA-237（または PUA-286）およびステレオカートリッジ VC-8E を組み合わせた最高級のプレーヤーシステムです。PS-2000 のトーンアームは PUA-237 で，PS-3000 のトーンアームは PUA-286 を使用しております。

テープコーダー TC-263D ¥ 22,800

ステレオテープを聞くための最も手軽でエコノミカルな４トラック・３ヘッドの高級テープデッキです。録音には専用の録音アンプ SRA-3（別売 ¥ 25,200）があります。

テープコーダー TC-255 ¥ 39,800

録音再生プリアンプ内蔵ですから，ステレオテープの再生や FM ステレオ放送の録音が簡単に行えます。

テープコーダー TC-350 ¥ 46,900

録音再生プリアンプ内蔵のハイファイ・ステレオテープデッキで，録音中の再生モニターができる３ヘッド式です。

スピーカーシステム SS-3300 ¥ 60,000（１台）

トランジスタアンプ用に設計された３ウェイ・スピーカーシステムです。ツィーターとスコーカーのレベルを３段階に換えられるスイッチがついています。

ソニー株式会社

ソニー商事株式会社

東京営業部	東京都品川区北品川 6—5—6 電話（東京 03）442—8111（代）
大阪支店	大阪市西区立売堀南通り 2—70 電話（大阪 06）532—1251（代）
名古屋支店	名古屋市中区栄 1—23—9 電話（名古屋 052）201—6871（代）
福岡支店	福岡市天神 3—16—19 電話（福岡 092）74—2761（代）
札幌支店	札幌市南大通り西 9—1 電話（札幌 0122）23—8121（代）
広島支店	広島市東平塚町 2—21 電話（広島 0822）41—9211（代）
仙台支店	仙台市東四番丁 30 電話（仙台 0222）25—0121（代）

ソニーサービス株式会社

東京支所	東京都港区港南 3—5—10 電話（東京 03）474—5111（代）
東京サービスセンター	東京都港区新橋 2—12—13 電話（東京 03）591—8401（代）
大阪支所	大阪市大正区三軒家浜通り 3—1 電話（大阪 06）552—1221（代）
名古屋支所	名古屋市中区門前町 7—5 電話（名古屋 052）331—7411（代）
福岡支所	福岡市警固 2—17—18 電話（福岡 092）76—1261（代）
札幌支所	札幌市北十二条東 1—277 電話（札幌 0122）73—2431（代）
広島支所	広島市庚午中 2—13—6 電話（広島 0822）71—3101（代）
仙台支所	仙台市東四番丁 33 電話（仙台 0222）25—6421（代）

ソニーに関するお問い合わせは
インホメーション・センターへ

東京都品川区北品川 6—7—35
ソニー株式会社 電話（東京 03）443—0111（代）